長野県坂城高等学校
（全日制普通科）

県立高校「未来の学校」構築事業（第Ⅱ期）

多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程の研究

１．研究開発の目標と現状の分析と課題

【目標】

多様な背景を持つ生徒たちに対して、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、教育課程全体を結びつけることで、自らライフキャリアをデザインし、主体的に学びに向き合う生徒を育成する。

【現状の分析と課題】

本校は中学時に不登校や、特別支援の対象となる生徒、外国由来の生徒が多数入学している。また主体的に学びに向き合うことのできない生徒たちもいる。それぞれのニーズを満たすカリキュラムが必要であるとともに、自己と他者を融和させられるコミュニケーション能力の育成が課題である。

２．研究開発の具体的な取組、期待される成果とその評価・検証方法

【取組①】「個別最適な学びの深化」

・デジタル教材の効果的な活用を研究
・少人数編成（習熟度別）による授業・日本語指導
・より効果的な授業日課の研究
・履修単位及び修得単位の弾力化
・多様な選択科目の設定（他校と連携した遠隔授業等）

【期待される成果とその評価・検証方法】

・それぞれの生徒がその興味関心に沿った学習を重ねることにより、学習意欲が向上する。
・地元の中学校からの進学者数が増加する。
・各教科科目の授業満足度が向上する。
＊アンケート調査を通じて評価・検証を行う。

【取組②】「多様な生徒を包摂する教育プログラム」

・３年間を見通した生徒支援（学年担任制等）の研究
・アセスメントによる自己理解を踏まえたキャリア教育
・人権教育・社会教育（主権者教育）プログラムの研究
・多様な個性（特性）を持っている生徒たちへの支援システムや教室環境（自立支援空間）の整備

・中途退学者が減少する（積極的な転退学を除く）。
・幅広い進路（人生）選択が実現する。
・学校満足度が上昇する。
・地域社会に参画する意識が向上する。
＊アンケート調査を通じて評価・検証を行う。

【取組③】「地域と連携した学校運営」

・学校と地域が連携するコンソーシアムの創出
・信州型コミュニティースクールを参考にした運営委員会（仮称）の設置
・地域連携コーディネーターの設置
・坂城町のリソースを活かしたカリキュラムの研究

・社会に開かれた教育課程が実現する。
・保護者の本校の教育活動への理解が深まる。
・地域や小中学校関係者の本校の教育活動への理解が深まる。
・本校の教育活動への協力者や支援者が増える。
＊地域アンケート調査を通じて評価・検証を行う。

３．研究開発・実施計画

	開始	２年目（令和８年度）	３年目（令和９年度）	４年目（令和10年度）	５年目（令和11年度）	それ以降
取組①	教育課程編成の研究 他校視察 → 新教育課程の構築		新たな教育課程の実践 他校との連携可能性の模索・研究		研究協議会の開催	教育課程の点検 他校との連携開始
取組②	本校の現状分析と課題の洗い出し 他校視察 → 生徒支援プログラム等の開発		生徒支援プログラムによる生徒指導等の実践 他校との情報共有による修正・改善			
取組③	先進事例の研究と協力者（団体）の選定 運営方法の検討		「運営委員会（仮称）」の創設・運営 「地域共創コンソーシアム（仮称」）の設置			運営方針の点検 コミュニティの拡大

４．情報発信及び普及に関する取組

・HPなどを通じた教育活動のPR
・運営委員会（仮称）の活動を通じての普及
・地域住民への発表会の周知（地域広報、ケーブルTV等）
・探究発表会（坂城学発表会）の実施
・研究協議会の開催

５．校内組織

・ヴィジョン委員会や教育課程委員会、教務部との連携による柔軟で魅力ある日課や教育課程の検討
・特別支援コーディネーター、SC、SSWと自治体の支援課等の外部専門スタッフとが連携した　生徒支援体制の構築
・運営委員会（仮称）による課題の洗い出しと熟議

６．支援体制

　地域連携コーディネーターは専門分野を活かし複数指名する。その統括を早坂淳氏（長野大学社会福祉学部教授）に依頼する。早坂氏はこれまでも本校の探究活動の支援をしていただいている。地域連携の在り方を研究分野とされており、さまざまな知見から地域連携コミュニティの構築に関わっていただける。
　さらに三浦隆志氏（授業デザイン研究所代表・ノートルダム清心女子大学非常勤講師）に、カリキュラムアドバイザーとして、情報提供や助言をいただく。

７．その他

・本研究テーマは次期学習指導要領の柱のひとつに沿うものであり、研究開発の成果は有益である。
・県下の小規模校が連携する遠隔授業のあり方についても研究を進める予定である。

発達支持的生徒指導のカリキュラム・マネジメント

学校目標
自らライフキャリアをデザインし、地域社会に主体的に関わり貢献できる人の育成

外部連携
・地域連携、大学連携
・外部人材（専門スタッフ）の活用
・信州版ＣＳとコンソーシアム構築　など

学習指導
・少人数、習熟度、ＩＣＴ活用
・選択科目、日本語指導、特別支援
・履修と修得の弾力化、日課検討　など

生徒指導
・困難課題対応的生徒指導
（「特別指導」のあり方の検討など）
・課題予防的生徒指導
（３年間を通じた体系的指導など）

キャリア教育
・ＳＳＴ、インターンシップ、坂城学
・市民教育（主権者教育）など

教科学習

国語　地歴
公民　数学
理科　保健体育
芸術　家庭
英語　情報
専門科目　学校設定
総合的な探究の時間

特別活動

ＨＲ活動
生徒会活動
学校行事
儀式的行事
文化的行事
健康安全・体育
旅行・集団宿泊
勤労生産・奉仕

部活動・その他